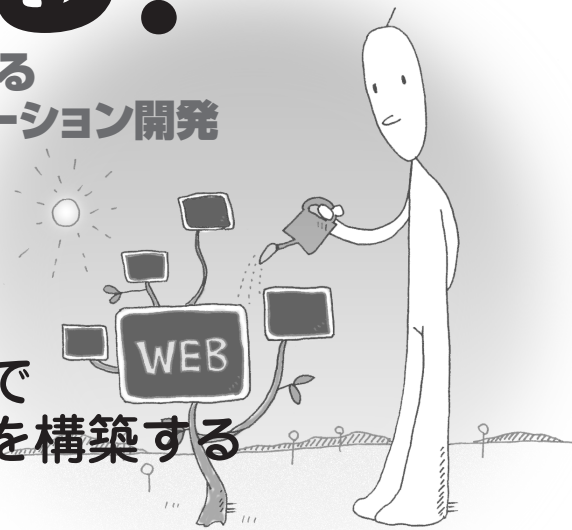


必ずできる!

基礎固め

ASP.NET

ゼロからはじめる
Webアプリケーション開発



第5回

Calendarコントロールで スケジュールメイン画面を構築する

山田 祥寛 YAMADA, Yoshihiro
<http://www.wings.msn.to/>

Technology Tools

- Visual Basic .NET
- Visual C# .NET
- SQL Server 2000
- Oracle 9i
- Access 2002
- ASP.NET
- Internet Information Services
- Other:
MSDE

Level



Samples

・この記事で取り上げたソースコードおよびサンプルプログラムは、付録CD-ROMの¥DOTNET¥ASPディレクトリに収録しています。

¥BEGINASPNET

「グループスケジュール管理」アプリケーション



はじめに

本連載では「グループスケジュール管理」アプリケーションの構築を通じて、ASP.NETアプリケーションの開発のための基本的な手法を学んでゆきます。

シリーズの折り返し地点も見えてきた第5回の本稿では、ASP.NETアプリケーション構築に際して使いこなせるようにしておく便利な、Calendarコントロールについて、より深く掘り下

げてみることにしましょう (図1)。

今回は、新しく「月別のスケジュール参照」画面 (index.aspx) を作成してみることにします (図1)。旧来のサーバーサイド技術ではとかく面倒であったカレンダーの作成も、Calendarコントロールを利用することでいかに簡単に作れるか、その手軽さを自分の手で動かしながら実感してみてください。

「月別のスケジュール参照」画面のレイアウト

ソリューションエクスプローラでプロジェクト名「beginAspnet」を右クリックし、コンテキストメニューから「Webフォームの追加」を選択してください。新たなWebフォーム (.aspxファイル) として「index.aspx」を作成します。

次に、画面のレイアウトを作成します。index.aspxのレイアウトはとてシンプルで、Calendarコントロール、Buttonコントロール、Literalコントロールを配置するだけです。各コントロ

図1: 「月別のスケジュール参照」画面



ルダ上に登録済みのスケジュールを出力。画面下部のボタンからは表示月のデータをCSV形式でダウンロード可能



O N E P O I N T

ソリューション（プロジェクト）に追加されたindex.aspxは、右クリックしてコンテキストメニューから「スタートページに設定」を選択し、トップページとしての定義をしておくとい良いでしょう。これによって、デバッグ時にもまずはindex.aspxが起動するようになりますので便利です。

表1：index.aspx上のサーバーコントロール

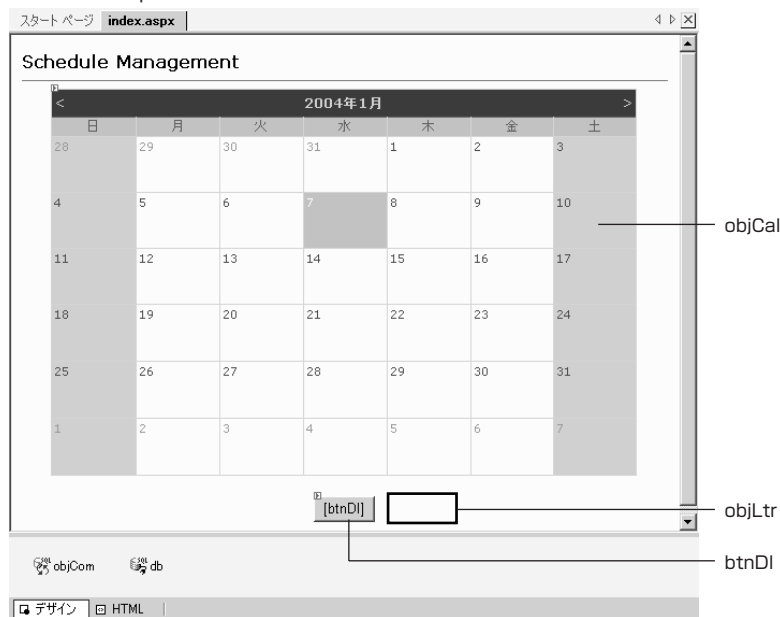
コントロール	プロパティ	設定値
Calendar	(ID)	objCal
Button	(ID)	btnDI
	Text	(空)
Literal	(ID)	objLtr
	Text	(空)

ールのプロパティ値は、それぞれ表1のように設定してください。

Calendarコントロールのレイアウトについては、プロパティウィンドウから個々に設定しても構いませんが、プロパティウィンドウから「自動フォーマット」を選択して、「カレンダーの自動フォーマット」ダイアログを利用しても良いでしょう。また、カレンダーの自動フォーマットでもっとも自分のイメージに近いスタイルを選択しておいて、カスタマイズしたい部分のみをプロパティウィンドウの個別のプロパティから設定するという方法でもOKです（コラム「Calendarコントロールのスタイル設定」を参照）。

Literalコントロールは、2004年2月号（第4回）の「日付入力の簡易化」で紹介したものと同様役割を果たすもので、クライアントスクリプトを動的に出力するために用いるプレイホルダです。Literalコントロールを、Webフォームの任意の場所に配置

図2：index.aspxのレイアウト



リスト1：Literalコントロールの前後を編集（index.aspx）

```
<script language="JavaScript">
<asp:Literal id="objLtr" runat="server"></asp:Literal>
</script>
```

表2：index.aspxに配置したSqlCommandコントロールのプロパティ設定

プロパティ	設定値
(Name)	objCom
CommandText	SELECT schedule_master.* FROM schedule_master WHERE (sdate = @sdate)
Connection	db

したら、フォームデザイナを [HTML] ビューに切り替え、

```
<asp:Literal id="Literal1" runat="server">
</asp:Literal>
```

の部分のコードをリスト1のように編集してください。

これで、フォームデザイナ上の作業は完了です（図2）。

*データ抽出用のコマンドを定義

次に、日単位のスケジュール情報を取得するためのコマンドを定義します。

ツールボックスの「データ」タブから「SqlCommand」コントロールをフォームデザイナ下部のコンポーネントトレイにドラッグ&ドロップします。ここで設定が必要なプロパティは、表2のとおりです。

Connectionプロパティに設定した「db」は、データベースサーバー（MS DE）への接続を表わすSqlConnectionコントロールです。Connectionプロパティの設定方法については、2004年1月号（第3回）でも紹介していますので、詳細はそちらを参照してください。